

第3部 諸地域世界の結合と変容

7 アジア諸地域世界の繁栄と成熟

3 東南アジアの大航海時代 (教科書 P. 122~123)

① 海の文明と港市国家 [p. 122]

- ・ 14世紀以降 東南アジアに來航する商人増加 (インド, 西アジア, ヨーロッパ, 中国などから)
→ [], 金, 錫などを求める
- ・ 沿岸や主要河川に大きな港市が形成される→海上の東西交易と内陸部を結ぶ接点に

↓

[] の出現

〈港市国家〉

- ・ 国際交易を基盤に, 後背地を支配
- ・ 17世紀まで東南アジアの交易の時代の担い手
- ・ 中国への [] を行い, イスラームを受容
- ・ 港に外国人・貿易を管轄する役人をおく

② マラッカ王国とジャワ・スマトラ [p. 122]

[]

- ・ 15世紀はじめに建国, 明に朝貢
- ・ 国王がイスラームに改宗
→インド洋周辺のムスリム商人などが訪れる
- ・ 香辛料, 陶磁器, 絹, 銀などの交易で繁栄する
→国際交易都市に
- ・ [] に滅ぼされる
→ムスリム商人は群島部へ移動

〈マラッカ王国滅亡後〉

スマトラ島… [] 王国
ジャワ島…バンテン王国, マタラム王国 } が台頭

- ・ [] が共通語に

- ・〔 　　　　　　 〕 (法学者) や 〔 　　　　　　 〕 (聖者) が往来→民衆にイスラーム文化が浸透

③ 大陸部の国々 [p.123]

タイ

- ・〔 　　　　　　 〕 朝がスコタイ朝を併合し、アンコール朝を滅ぼす

→ { 豊富な輸出産品
南シナ海とベンガル湾のあいだ } 貿易で繁栄

- ・国王は〔 　　　　　　 〕を保護し、外国人を登用

→〔 　　　　　　 〕は国王の傭兵隊長に

- ・ポルトガルや日本の貿易船 (〔 　　　　　　 〕) が往来

→日本町ができる

ミャンマー(ビルマ)

- ・〔 　　　　　　 〕 (1531～1752年) が全土を統一

→イギリスやオランダとの交易で繁栄

- ・〔 　　　　　　 〕 (1752～1885年) はアユタヤ朝を滅ぼし、清を撃退して領土拡大